

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽 西乃家		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132-1		
自己評価作成日	令和5年 10月 1日	評価結果市町村報告日	令和5年 12月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と信頼を軸におき、利用者様が安心して生活をして頂けるように、いつまでも自分らしく穏やかな日々をお過ごし頂けるよう心掛け、一人一人の個性や生活のリズムに沿い、信頼関係が築けるよう努力し、気配り目配り思いやりを持って支援を行っている。御家族様との信頼関係を保ち身体の報告は元より、日常の様子などの報告もかかさず行い、病気の早期発見に努め、また身体状態・精神状態の些細な変化にも目を向け、主治医報告により、病気の早期発見・治療が出来るよう努めている。また、利用者様1人ひとりに応じた支援を行う為、職員間での話し合いは月一回、または課題や問題が出た時点でその都度行い、ケア内容の充実に努めている。。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に親しまれた事業所では、温かな雰囲気の中、穏やかな生活が送られています。入居者の高齢化や介護度の高まりで個別支援がより必要となっている状況が聞かれました。職員間では毎月の会議で意見を話し合える環境にあります。コロナ・インフルエンザと感染症の心配がある中、職員全体で対策に臨む姿が見られました。コロナ5類移行後も以前のような活動は難しい状況も窺えましたが、職員面談では家族との関わり支援についての課題も聞かれ、入居者のことを考え、家族のことを考える様子が見えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が事業所理念を共有し、利用者個人を尊重し選択の機会と自由を提供している	理念に基づいた年間目標を掲げ、入居者の自分らしく穏やかな生活が継続するよう、ケアに取り組んでいる。	理念は日頃のケアの基本とされています。理念は介護計画の基本であり、介護計画は理念に通じるものであると考えます。理念について振返りの機会作りを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防をしながら今年の祭りの時は地区の子供たちの踊りを見ることが出来それを通して交流する事が出来た	五穀豊穡を願う地域の祭りも3年ぶりに復活し、踊りの披露に来所頂いたことで入居者も楽しむことができた。入居者の希望により、少数ではあるが馴染みの床屋利用や買い物に出かける等、支援を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験、福祉体験学習又他の団体の訪問はコロナ禍で実施出来ていない。地域の認知症の方を利用者として受け入れ本人や家族と関わる事で地域の認知症ケアに貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で自粛していたが5月から5類になり開始する事ができるようになり事業所の取り組みを報告し意見、評価をうけサービス向上に活かしている。	コロナの5類移行で対面での開催を再開したが、インフルエンザ等の流行により、開催については役場への相談を行っている。この数年で地区代表の交代もあり、今年は久しぶりの対面開催で交流も深めることができた。	運営推進会議では事業所の取組みを伝えるとともに、意見・評価を受ける機会でもあると考えます。確認した資料では意見交換の結果が見えづらいものでした。意見交換があった際のみ議事録作成ではなく、過程等の記録も必要と考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の町民福祉課や社協などと連携し町の緊急対応品、備蓄の協力にも取り組んでいる。	運営推進会議への参加にて事業所の取組みを伝えている。従来より敷地内に発電機等を備えた町の防災倉庫があり、点検・管理は事業所で担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去の研修会の資料の回覧等で知識普及に努めている。夜間の安全の為の施錠以外は自由に出入りできるようにしている。	ホーム長・ケアマネージャー等で委員会を構成し、委員会の内容は後日職員間で共有している。職員研修を3ヶ月に1回行っており、身体拘束が心配される例がないか等、話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の回覧などで高齢者の虐待の内容を把握し職員同士が注意し認識を高め合いながら毎日のケアを行う事で虐待または無意識の虐待がおきないように努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は必要時は自主学習により権利擁護制度について知識があり、必要と思われる利用者には利用を積極的に勧め関係者と検討し活用支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族に同席をして頂き、代表者が良く話を聞きながら十分な説明を行い、理解と納得を得られたうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で今年の5月に5類になるまで自粛していた運営推進会議を再開。家族代表や役場職員、地域代表の方々にも出席していただき、意見や要望を聞き運営に反映させている。	入居者の意見要望は日頃の職員との関わりから得ている。家族の意向は面会や電話による状況報告の際に確認するようにしている。内容は毎月の職員会議にて共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼やホーム長会議、毎月の研修会議の際に職員の意見や提案を取り上げて運営に一部反映させている。	日頃から職員は管理者へ意見を表す機会を持っている。職員会議は全職員参加を基本に毎月開催しており、意見を出し合う場でもある。代表者からも職員へ声掛ける場もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を目指す職員に対し、試験日は出張扱いにする等の支援を行っている。また、欠勤の無かった職員には皆勤手当を支給し職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス対策の為施設内外を問わず研修の実施または開催は差し控えている。代表者からの聞き取りで各職員の実際のケアや力量の把握は出来ており、業務内での指導は随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス対策の為、外部との接触は極力さけている状態にある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を頭に入れ本人に合わせた声掛けを行い馴染みの関係を作る事で安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の契約や面会の際に、家族の希望や思いを聞き取りする事で信頼関係を築く様努めている。又、いつでも連絡をとれるような体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な情報を本人や家族が必要としているサービスを展開していくように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハとして一緒に洗濯物たたみ等の作業をしたり、テレビや新聞を見て感想を言い合ったり、同じ生活者の目線で寄り添った関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に関わる情報を小まめに家族に伝えて、現在の状態を説明し、家族に理解してもらったうえで利用者との関わりをもってもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族へ電話を希望される場合、施設の電話を使えるように支援している。思い出の場所・馴染みの店にも行ける体制は整っているが、今はコロナ禍の為支援できていない。	感染症対策を継続し個別検討は継続しているが、買い物への外出や馴染みの理容室へ出向いたり、家族協力にて一時帰宅の支援を行っている。	コロナ5類移行後、他の感染症流行の懸念もありますが、入居者を共に支える立場として家族と入居者の関係が希薄にならないような取組みの工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のできる雰囲気作りやお互いに気兼ねなく生活できる場をつくり、利用者同士が孤立したりトラブルになることなく関わりあえるよう支援している。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った時にはいつでも相談する様につたえ、再度の支援につなげられる様に関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を把握し、意志疎通が困難な利用者については、今までの生活歴や好み、わずかな表情や動きから本人の思いを汲み取るように努めている。	基本的に入居者の思いや意向に沿った生活を送ってもらっている。コロナの5類移行により外に出ることも日常生活ととらえ自由に行っている。思いを表すことが難しい入居者はこれまでの生活歴や日頃の様子、家族の面会時等での確認で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や環境等が記載された情報ファイルをもちいて不明な点は、本人または家族に聞いて把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に大きな変化があった時は担当職員がアセスメントを作成し、常に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、本人、家族の希望や意向を取り入れ、月一回のモニタリングで意見を出し合い現状に則した計画になっている。	毎日の入居者の様子がモニタリングチェック表を用いている。毎月の職員会議はモニタリングを兼ねており、入居者の日頃の様子を話し合い共有する場としている。介護計画の見直しは半年毎を基本としている。	毎月入居者の様子を職員間で話し共有する様子が聞かれました。家族の意見要望は面会等を機会にされているようですが、入居者を共に支える立場として担当者会議の開催を検討されてみてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には各項目ごとの達成度を記載し出来なかった場合は、理由を記載し見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ない事ではなくどうすれば出来るのかと視点を変えて考えることで、より柔軟に対応出来る様に努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みの店や長く診て頂いた病院など、出来る限り継続して利用し、安心して生活出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は継続出来る様に、また本人や家族の希望により決めている。体調不良、本人・家族の希望時には受診し、訪問診療により体調管理は出来ている。	入居前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。主治医の定期診察は往診、眼科・歯科も訪問診療である。できるだけ薬を減らすことに取り組んでいる。通院が必要な際には職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師に相談できる体制を取っており、看護師から介護職員への受診の指示がおこなえ、適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院の地域連携室と連絡をとり、情報を得それを基に医師との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に入った場合、本人や家族と話合って意向を把握すると共に施設で出来る事を説明・理解してもらい、医師と家族の話し合いの上で方針を決め関係機関と連携して支援している。	看取りは自然なこととし医師等とも協力しながら支援を行っている。最期の時には家族も居室で一緒に過ごし、医師の話も交え、家族の心のフォローも行い、最期のお別れをして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は対応マニュアルに沿って対応できる対応できる体制を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を発生させない事を第一とし、火の扱いには細心の注意をはらっている。年一回の防災訓練で、消防署の指導を受けながら避難訓練や消火の訓練を行っている。	火災だけでなく事故・災害・感染症発生等、それぞれに対し確認を行っている。訓練の反省はホーム長会議等で行っている。今後は入居者・職員だけでなく、職員家族まで賄えるだけの食料備蓄等を検討しているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間目標として、安心と信頼をかけた、やさしいきもちを持つことを心がけゆっくり丁寧な介護が出来る様職員で対応している。	介護度が高くなり、入浴や排泄での複数介助が必要な場面も見られるようになってきたため、特に配慮が必要となっている。入居者にとっての安心と信頼のため、丁寧な言葉掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に表情や動きの変化に気を配り、言葉でなくても本人の希望や思っている事が汲み取れる場面が作れる様心がけ、話しやすい場面が持てるよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、個人の希望、またはそれ以外の時間の利用は本人と相談しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・洗面用のタオルを準備し、整髪剤を使用して、身だしなみに気をつけている。定期的に散髪や爪切り等も実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が食べれないもの嫌いな物に対しては代替品を提供し、食べたいものがあれば家族に相談し購入している。準備、片付けは介護度と高齢化が進んだことにより少ししか出来なくなった。	法人内で手作りの食事を提供しており、炊飯は各ユニットで行っている。毎月の誕生会や季節の行事食も楽しみとなっている。以前のように一緒に調理できる入居者も減ったが、中には干し柿作り等を手伝う姿も見られた。準備・片づけ等には積極的な手伝い・関わりは難しい状況となった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握・記録を行い必要うとあれば水分強化したり水分制限をして、ひとりひとりの状態にあわせている。栄養の不足分は栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、すべての利用者に声掛けを実施している。自分で出来ない方には介助を行い、必要に応じて道具を選択している。うがいの出来ない方にはガーゼでの拭き取りを行い状態にあわせたケアを行っている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により利用者の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。段階的にオムツやパットの種類を選びその人に応じた物を使用している。	入居時の状況を基本として対応をはじめ、入居後の様子をモニタリングで検討しながらパットやオムツの選択を行っており、家族負担にも配慮している。日中はパットの利用も多い。立位が難しい入居者も複数介助でできるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、牛乳の提供や運動の声掛け、腹部マッサージ等を行っている。またかかりつけ医とも連携をとることで下剤を使用し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は設定し実施出来る様にしているが、時間帯の考慮、体調不良時は振替日を設けたり、入浴日以外であっても希望があれば入浴支援している。	週2～3回の入浴を基本に支援を行っており、平日の入浴が難しかった入居者には日曜日も対応する。両ユニットとも家庭的な浴室であるため、介護度が高くなった際には機械浴(寝湯)が備えられている隣接事業所を利用する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録や申し送りで職員間の情報交換を行い、利用者の休息や睡眠パターンを把握、共有している。また、部屋は整頓し寝具も定期的に洗濯したり干したりして、気持ちの良い睡眠がとれる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報はいつでも見れるようにファイリングし、看護師や薬局、医師との連携に務め処方薬の変更があれば記録や申し送りを行い、情報共有を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話や家族からの情報で、好物や趣味を把握し、出来る限りの支援を行っている。またそれまでの生活歴を考慮し生活リハビリとして、その人が出来る役割をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩等、声掛けを行い本人が希望すれば職員の支援で出かけられる体制が取れているが、コロナ感染予防の為、散歩に留め、人が集まる場所には行かない様にしている。	以前は花見等のドライブにも出かけていたが、近年のコロナ禍で気軽な外出が難しい状況が続いていた。現在は希望される方の散歩程度となっている。車椅子利用者も増え、一度に外出できる環境作りも難しくなったのが現状である。	

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力を考慮したうえで可能な利用者には規定額内でお金を所有して貰っている。金庫で管理している預かり金も本人や家族の意向により使用し、明細は毎月キーパーソンに送付し明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話したいとの希望があれば施設の電話にてかけてもらっている。利用者宛ての電話や手紙は既定の手順にて取り次いでいる。読み書きのできない利用者には代読、代筆を行い交流支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレの臭いに気を配り、換気を常に行っている。寒さや暑さを感じさせないように温度調節を徹底し、季節のものの装飾を工夫したりして身近で感じてもらえるように工夫している。又、清掃、消毒は時間を決めて行っている。	各ユニットそれぞれの特徴が見られる。散歩に出た際に摘んだススキを飾ったり、季節の果物の飾り等での工夫が見られる。床暖房の利用により温かな温度の中、穏やかな雰囲気を持つ空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間である居間やソファや食堂の椅子は、利用者がいつでも自由に座れるようになっており一人で新聞を読んだり、数人で談話したりして本人が選択し過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には本人や家族の希望にそって、自宅背使っていたものや好みの者など、すきなものを持ちこんでもらっており、自分の家と変わりなく過ごせるような雰囲気作りをしている。	居室にはテレビや冷蔵庫・生活用品が持ち込まれている。居室で過ごすことが好きな入居者もおられ、心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーであり、廊下やトイレ、浴室などには手すりを設置している。また廊下や食堂も安全に離合出来る様(充分な)広さを取ってあり安全に自由に行動できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽 あずま家		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132-1		
自己評価作成日	令和5年 10月 1日	評価結果市町村報告日	令和5年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、入所者様の残存機能が継続出来るよう支援を行い、出来ない事をお手伝いする姿勢で接し、いつまでも自分らしく穏やかな日々をお過ごし頂けるよう心掛け、一人一人の個性や生活のリズムに合い、信頼関係が築けるよう努力しています。また身体状態・精神状態の些細な変化にも目を向け、主治医報告により、病気の早期発見・治療が出来るよう努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年 月 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームあそ和楽の遵法する精神として、理念・事業の目的・運営方針が定められて事業所に掲示されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策として以前ほどの交流は行えていないが、利用者が地域との繋がりを感じられるよう、感染対策をしたうえで今年から地域の祭りの踊りの鑑賞を再開した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービスとして、地域の認知症の人を受け入れており、支援している。感染対策の為地域との交流の機会は少なく、地域の人々へ認知症の知識や支援の方法を広めることは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為開催を中止していたが、5類への移行に伴い、感染状況をみながら6月から再開している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高森町の担当者とは顔なじみであり、何かある際には連絡を取り合って協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や管理者は身体拘束の具体的な行為について理解しており、毎月行われるモニタリング会議でも他職員に周知を図っている。玄関の施錠については、防犯上の観点から必要な時間に適宜行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止について情報を集め学ぶよう努めており、事業所内の職員の行動にも注意を払っている。職員による無意識な行動が虐待に繋がる可能性がある場合は、注意喚起し防止に努めている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する制度について情報を集め学ぶよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明や締結は管理者が行っており、利用者や家族に不安や疑問点があれば改めて説明を行い、理解や納得を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入口に「ご意見記入用紙」を設置して、何かあれば記入してもらえるようにしている。また、利用者の発言や家族から電話や訪問時に意見・要望があれば、毎日のホーム長会議で運営部へ伝え反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案がある時には、管理者に相談することができる。管理者に相談があった時には、聞き取りの機会を設けることもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握し、問題がある場合は直接聞き取りをすることもある。残業が発生することは少なく、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な資格取得への援助や研修機会の確保は行われているが、コロナの状況により審査と審議を重ねた上で慎重に決定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の為、管理者や職員が直接同業者と交流する機会は持っていないが、代表者が感染症の情報を受け取り、それを共有する取り組みは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後は本人との関係作りや生活リズムを整えることを最優先とし、積極的に話す機会を持ちながら本人の困り事や心配事、希望などを聞き出して可能な限り対応することで、安心できる環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には家族からも良く話を聞き、不安な事や今後の生活についての要望などを聞き出して可能な限り対応することで、信頼関係を作る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には本人や家族から話を聞くほか、本人の状態を観察して必要な支援を見極め、それぞれにあったサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、洗濯物たたみや食器片付け等の家事を利用者と一緒に行うと共に、生活の様々な場面で話しかけて、共に生活する対等な関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話があった際に、本人の身体や生活状況を伝えたり、家族の話を聞くことで、共に信頼し合い本人を支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策により一時期は外出制限があったが、現在は緩和しており、本人の要望があれば馴染みの店に買い物に行ったり理髪に行ったり、一時帰宅したり出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格やそれぞれの関係性を観察し、把握できている。トラブルになりそうな時は介入し関係調整を図るほか、難聴の利用者の意思疎通を補助したり、利用者同士が関わりあえるよう職員が中心となって会話を盛り上げたりしている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、本人や家族のその後の経過は気にかけており、施設外で見かけた時には挨拶をして関係を保つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から思いや生活の意向を聞き取り、その人らしい生活が送れるような支援に取り組んでいる。本人からの聞き取りが困難な場合は、日頃の様子を見ながら、本人の意向を推測している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は関係機関から生活歴や環境、サービス利用の経過などの情報を集めるほか、本人や家族からも聞き取りを行って、これまでの生活を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録に毎日の過ごし方や、健康状態等を記録し、日頃の状態を観察して有する能力や能力があってもしようとする事などの現状を把握し、全職員が情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回事業所の全職員が集まってモニタリング会議を開き、本人の現在の状態や支援の方法を把握すると共に、現状に即したより良い支援を検討して実施している。その際には本人の希望や家族や主治医の意見も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子、ケアの実施状況を介護経過記録に記入している。ケア方法が変わった際には申し送りノートにも記録し、情報を共有している。モニタリングの際にはこれらの情報をケアの検討に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策を取りながら、利用者の外出や一時帰宅、財産相続の為の書類記入の補助など、可能な支援は行っている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の能力や家族関係、生活歴やかかりつけ医等の情報を把握し、これまでの生活を支えてきたこれらの資源と関わりを持ち続けながら生活出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の希望する病院としている。地域の5つの病院と関係を築き、訪問診療もしてもらっている。また体調不良等の必要時には受診介助を行い、適切に医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護経過記録に毎日の過ごし方や、健康状態等を記録し、日頃の状態を観察して現状を把握し、全職員が情報を共有している。必要であると判断した場合は速やかに対処できるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合はサマリーを提供し、定期的に関係者と情報交換している。早期に退院できるよう施設代表者が医療機関に出向き、状態を把握し退院できる環境を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を早い段階で察し、本人、家族に発信すると共に関係方面に協力をお願いする。チームで意向に沿って、ケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時に速やかに対応できるよう看護師や上司の指導や指示を受け、適切な処置が出来る為の学習に努めている。出来ない職員には個人的に出来るまで指導にあたっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。地域との連絡体制も築けており、全職員の意識向上もたかまってきた。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい言葉かけができ、常に丁寧でやさしい気持ちで接する事が出来る様心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言動の観察をおこない、本人が何を望んでいるのかや思いをくみ取れる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの個性やペースを把握し適切な対応ができています。決まりや都合を伝え、協力をお願いしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に心掛け、いつも清潔であるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいものであるよう嗜好に出来るだけそうよう工夫したり、利用者の手伝いに感謝の言葉かけを行ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の食べる量の把握ができて、嫌いな物に関してはなるべく対応出来るように、他部署に協力して貰っている。水分は制限のある人には注意し、1日/1000ccを目安に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の生活の様子、ケアの実施状況を介護経過記録に記入している。ケア方法が変わった際には申し送りノートにも記録し、情報を共有している。モニタリングの際にはこれらの情報をケアの検討に役立てている。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定時の他にも個人に合った排泄介助を行っている。おむつや適切なパット類の検討を話し合いながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄表で把握し、申し送りでスタッフが把握している。運動や食事、水分との関連でも対処出来ない時は、主治医に指示をあおぐこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体の状態に合わせ、タイミング良くにゆうよくできるよう支援している。その日に実施出来ない場合スタッフ間で話し後日入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を入所時間取り、個々に合わせた生活ができるよう支援している。また環境整備にも気を配り、安心感を持って頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をもとに、1人ひとりの薬について理解し、服薬の支援を行っている。症状の変化が見られる時は主治医へ報告するよう観察を密にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前からの趣味や生活歴を把握し、1人ひとりに合った手作業をしてもらったり、職員と生活リハ等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望があれば、戸外散歩や買い物支援できる体制をとっている。感染予防にきをつけながら今後はドライブ等も計画したい。		

グループホーム あそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用目的を確認した上で、希望される金額をお渡し収支の記載を明確にして家族様にお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主介護者の許可を得たうえで、希望される相手へ電話をかける支援をし、難聴などで会話が困難な利用者様が希望された場合は職員が代弁し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはなるべく物を置かないようにし、安全に過ごせるように配慮し、室温の設定も利用者様が快適か尋ねながら調節している。空いているスペースに、季節きせつの作成した飾り付けや、花等見て楽しめるものを置いたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、馴染みの方と自由に交流できるよう席の配置を工夫し、ゆっくり過ごせるようソファを置き、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族から思いや生活の意向を聞き取り、使い慣れた物を使用して頂くよう支援し、家具の配置も安全に過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの残存機能をいつまでも活かせるように、不足部分を補う支援を心掛け、安全に生活出来る様見守りながら生活していただいている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあそ和楽

作成日 令和5年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	家族と入居者の関係が希薄にならない取り組みの工夫が必要	面会の機会が少ないご家族へ、入居者の様子を伝える連絡を小まめにする	最低一ヶ月に一回の家族への連絡(入居者の生活の様子中心。要望あれば写真等を送付)	1ヶ月
2	4	運営推進会議での意見交換の過程を含めたうえでの記録	事業所の取り組みを伝えるだけでなく意見交換も積極的に行うことで、サービス向上に活かす	運営推進会議実施毎に議事録を作成する	6ヶ月
3	1	理念についての振り返りの機会作り	理念についての振り返りの機会を作ることでケアの質の向上に繋げる	事業所毎での月一回のモニタリングで理念について振り返りを行う	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。